

ナラティブを用いた学習言語の評価と指導法の開発： ー思考・学習のための言語習得に躓いている子どもの早期発見と支援のためにー

入山 満恵子(新潟大学 教育学部 准教授)

【なぜナラティブ?ー子どもの言語発達の変遷】

「ママ」「ブーブー」

コミュニケーションのための
ことばから、**学習のためのことばへ**「私は▲だと思います。
理由は◇だからです。」「ナラティブ」が伸びれば書字
言語も伸びる、との知見も
(Spencer et al 2018)

ナラティブ=時間的に連続した出来事を順序付けてことばで表現

幼児期以降〜ナラティブは発達していく

「きょうね、〇ちゃんとブランコして…落っこちて、痛いしちゃったの!」
Q.「なんで叩いたの!」 A.「だって△ちゃん、おもちゃとるんだもん…」←「相手がわかるよう、順序立てて話す」
「すじ道を立てて話す」「必要な語彙を入れて話す」ための「ナラティブ」力がつかなければ、作文や意見要約はむずかしい…

【そこで…通級指導など個別指導の場で実践できる、ナラティブ指導・評価法を開発しました!】

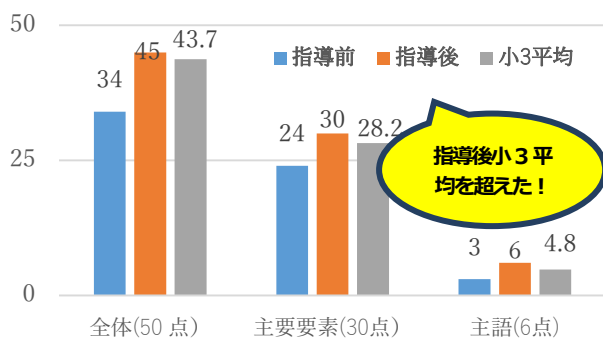
ストーリーの主要要素を示すアイコン。要素は「人」「場所」「できごと」「気持ち」など。
ストーリー再生の際、表出の手がかりとなる。

起承転結のある5枚絵ストーリー

子どもの発話をかきとめた付箋。子どもの目の前で確認しながら書き起こしていく。

アイコンを意識したストーリーの読み聞かせ⇒子どもの再生(1〜3回目まで色違いの付箋に記録)
⇒内容確認⇒2回目再生⇒語彙、文法確認と短文作り⇒3回目再生⇒類似した自己経験の語り

【各地の通級指導教室、言語指導室で使用してもらい、従来の言語指導方法と比較検証しました(6都府県、40名)】



指導後小3平均を超えた!

←ある小4事例の指導前後での言語評価(ナラティブ)の変化。指導前は小3平均に満たなかった値が、指導後には上回った!

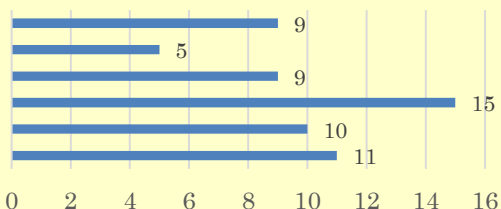
他にもナラティブ指導により「言語化できるようになって行動面・情緒面が安定した」「話しことばだけでなく『書きことば』(作文等)もわかりやすくなった」…など、良い変化が示されたとの報告が、多数寄せられました。

さらに事後アンケートからは、指導効果を感じたお子さんの具体的な変化も報告されました↓

また、ナラティブ指導法とお子さんのタイプ(特性)の相性、具体的な使い勝手など「ユーザー目線」のご意見を多数集積することができました。

ことばの意味を聞いてくるようになった
長い文で話すようになった
前よりしゃべる量が増えた
説明や言いたいことがわかりやすくなった
普段の会話、やり取りがスムーズになった
すじ道を立てて話すようになった

指導者15名による回答から(複数回答可)



成果

1.ナラティブ指導後に、担当者、保護者、担任など多くが子どもたちの言語面を含めた伸びを実感できた!
2.開発したナラティブ評価・指導法が、言語の弱さを持つ子どもたちの指導に役立つことが示された。

課題

・現場の意見を踏まえ指導法の修正・改善
・事例を増やしてさらに効果を解析
・指導法活用の拡大(データベース作成、クラウド等の活用・オンライン仕様の検討)

共同研究者: 岡田翔平(新潟大学), 瀬川幸子(横浜市立市ヶ尾小学校), 谷川美記子(新潟市立鏡淵小学校)